

区分・種別	国宝(建造物)		
名称	たいほうじほんどう 大宝寺本堂 1棟 附 厨子1基 棟札1枚		
所在地	松山市南江戸		
所有者	大宝寺	管理団体	
指定年月日	大正6年4月5日 国 昭和28年3月31日 国宝		
解説	<p>真言宗^{ぶざんは}豊山派大宝寺は、大宝年間（701～704年）の越智玉興^{おちのたまおき}の創建と伝えられる。本堂の建物は、桁行3間、梁間4間、一重、寄棟造、二軒^{ふたのき}、本瓦葺である。様式は和様、柱はすべて円柱で、柱上には斗拱^{ときょう}を用いず、四隅の柱上^{ふなひじき}にのみ簡素な舟肘木を置く。垂木^{たるき}間隔が柱間ごとに違っていることなどから、平安時代末期の阿弥陀堂形式を用いた鎌倉時代初期の建築であろうと考えられる。屋根はもと茅葺であったのを、延享^{えんきょう}2（1745）年の修理の際に瓦葺に改めたと推察される。簡素ながらよく均整がとれ、県下最古の木造建造物として貴重である。</p> <p>正面の3間には^{しとみど}部戸を、両側面南端及び背面中央にも板扉を持ち、内部は板張り、南側1間の床を2寸程下げて外陣とし、その奥は内陣となる。</p> <p>堂内の厨子^{ずし}は寛永8（1631）年の作で、正面3間、軒唐破風^{のきからはふ}付、柿葺^{こけらぶき}、和様に禅宗様の手法を加味した優れた作である。</p> <p>なお、重要文化財の木造阿弥陀如来坐像、木造釈迦如来坐像、木造阿弥陀如来坐像が本堂に安置されている。</p>		

